



新情報および変更された機能に関する情報

この章は、次の項で構成されています。

- [新情報および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

新情報および変更された機能に関する情報

次の表は、現行リリースに至るまでにガイドの編成と特徴に加えられた主な変更点の概要を示しています。ただし、今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: リリース 25.0(4) の Cisco Cloud APIC の新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud APIC の Cisco Catalyst 8000V での PAYG ライセンス モデルのサポート	Cisco Cloud APIC は Cisco Catalyst 8000V でのペイアズユーゴー (PAYG) ライセンスモデルをサポートしています。これにより、ユーザは VM サイズに基づいてクラウドに Catalyst 8000V インスタンスを展開し、時間単位で使用料を購入できます。	

表 2: リリース 25.0(3) の Cisco Cloud APIC の新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Azure ネットワーク ロードバランサの複数のフロントエンド IP アドレスのサポート	このリリースでは、Cisco Cloud APIC の Azure ネットワーク ロードバランサに複数のフロントエンド IP アドレスがサポートされています。	レイヤ 4 からレイヤ 7 サービスの展開
Cisco Cloud Services Router 1000v から Cisco Catalyst 8000V への移行	Cisco Cloud APIC は、リリース 25.0(3) 以降、Cisco Cloud Services Router 1000v から Cisco Catalyst 8000V に移行します。	

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud Services Router 1000v および Cisco Catalyst 8000V で使用される用語	<p>上記の2種類のルータには、次の用語が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSR : クラウドサービスルータの省略語です。シスコクラウドサービスルータ 1000v を指し、リリース 25.0(3) より前のリリースで使用されました。 • CCR : Cisco Cloud ルータの略。リリース 25.0(3) 以降で使用される Cisco Catalyst 8000V を指します。 <p>さらに、このドキュメント全体で、CCR は、リリースに応じて、上記のいずれかのルータの総称として使用されます。</p>	
マルチサイト オーケストレータの名前の変更	<p>Cisco ACI マルチサイト Orchestrator (MSO) は、2021年8月15日のMSOリリース3.4.1からCisco Nexus Dashboard Orchestrator (NDO)に変更されました。このCisco Cloud APIC ドキュメントでは、MSOのすべてのインスタンスがNDOになりました。</p>	

表 3: リリース 25.0(2) の Cisco Cloud APIC での新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Azure VPN ゲートウェイを使用したサイト外部 EPG のサポート	<p>リリース 25.0(2) 以降、VPN ゲートウェイを使用して、Cloud APIC で管理されたクラウドサイトと非 ACI リモートサイト間の接続を提供するためのサポートが利用可能になりました。</p>	<p>Cloud APIC 管理対象クラウドサイトと非 ACI リモートサイト間の接続の構成</p>

機能または変更	説明	参照先
Azure および AWS でルーティングとセキュリティポリシーを個別に構成するためのサポート	<p>リリース 25.0(2) 以降、ルーティング ポリシーに対して次の更新を利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内部 VRF ペア間のルートマップ ベースのルートリーク のサポート 内部 VRF ルートリーク ポリシーのサポート。これにより、内部 VRF のペア間で契約ベースのルーティングまたはマップベースのルーティングを使用するかどうかを選択できます。 	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Cloud APIC の概要 Cisco Cloud APIC コンポーネントの設定
CCR IPsec トンネルは、外部ブランチ接続に使用可能な 3 つのデータ インターフェイスのいずれかを使用できるようになりました。	<p>リリース 25.0(2) より前では、外部ネットワークへのすべてのトンネルは、CCR ルータの 1 つの特定のインターフェイス (GigabitEthernet3 インターフェイス、または cloudHostIfp-2) から発信されていました。</p> <p>リリース 25.0(2) 以降、サポートが拡張され、同じ宛先へのトンネルを GigabitEthernet2、GigabitEthernet3、および GigabitEthernet4 インターフェイスから形成できるようになりました。これは、IKEv2 構成のトンネルでのみサポートされます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Cloud APIC の概要 Cisco Cloud APIC コンポーネントの設定
Azure NLB バックエンドプールの VM スケールセットのサポート	<p>リリース 25.0(2) 以降、ロードバランサのバックエンドターゲットとして Azure 仮想マシンスケールセットのサポートが追加されました。</p>	<p>レイヤ 4 から レイヤ 7 サービスの展開</p>

機能または変更	説明	参照先
ワークロードデプロイ用のクラウドリージョン数の増加のサポート	リリース 25.0(2) より前では、サイトごとに最大 4 つのリージョンを持つことができます。リリース 25.0(2) 以降、サイトごとに最大 16 のリージョンを持つことができます。	
overlay-2 (セカンダリ) VRF での変更	リリース 25.0(2) より前では、セカンダリ VRF である overlay-2 VRF は、Cisco Cloud APIC の起動時にインフラテナントで暗黙的に作成され、overlay-2 (セカンダリ) VRF でのみ Azure のサービスを作成する必要がありました。 リリース 25.0(2) 以降、その制限は削除され、overlay-2 VRF は Cisco Cloud APIC の起動中にインフラテナントで暗黙的に作成されなくなりました。	overlay-2 (セカンダリ) VRF の変更について

表 4: リリース 25.0(2) の Cisco Cloud APIC での新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud APIC のリリース番号の変更	リリース 25.0(1) 以降では、Cisco Cloud APIC のリリース番号が変更されています。Cisco Cloud APIC のリリース順序は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 4.1(x) (AWS のみのサポート) • 4.2(x) • 5.0(x) • 5.1(x) • 5.2(x) • 25.0(x) 	

機能または変更	説明	参照先
Cisco Cloud APIC での Prometheus Node Exporter のサポート	Prometheus ノードエクスポートは、リリース 25.0(1)以降から Cisco Cloud APIC でサポートされています。	VM ホスト メトリックのモニタリング
インフラ VPC CCR から IPSec/BGP を使用した外部デバイスへの IPv4 接続のサポート。	インフラ VPC CCR から IPSec/BGP を使用する任意の外部デバイスへの IPv4 接続がサポートされるようになりました。	外部ネットワーク接続
外部接続の設定時に、セキュリティ ポリシーに関係なく、内部 VRF と外部 VRF の間でルーティング ポリシーを個別に設定するためのサポート。	外部接続の設定時に、セキュリティ ポリシーに関係なく、内部 VRF と外部 VRF の間でルーティング ポリシーを個別に設定するためのサポートが利用できるようになりました。	サポートされているルーティングとセキュリティ ポリシーの概要

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。